



# 津山市教委 かわら版



津山市教育委員会だより 平成28年3月 第21号

## げんぼくん本との出会い プロジェクト推進事業

津山市教育委員会では、市内の小学校に在籍する児童のみなさんに、7月から9月の期間、市内の指定書店で使用できる「げんぼくん図書クーポン券」をお贈りし、保護者の方等と一緒に書店に出かけ、本を選び、本に対する興味や関心をもってもらい、読書に親しむ環境づくりを目的として「げんぼくん本との出会いプロジェクト推進事業」を実施しました。

## 事業の実施結果

交付枚数 5,872枚  
利用枚数 5,112枚  
総購入数 1万9,53冊  
(1人あたり約2.1冊)  
図書クーポン券で99万5千円を助成しました。

## 人気書ベスト3

- 一位 かいけつゾロリのよ  
うかい大うんどうかい  
(原ゆたか/ポプラ社)
- 二位 バケモノの子  
(細田守/KADOK  
AWA)
- 三位 うみの100かいだ  
てのいえ  
(岩井俊雄/偕成社)

## 小中学校教職員勉強会 「つやまげんぼ塾」 開塾2年目を終えて

平成26年度から、小中学校の若手教員の授業力向上を目指した自主研修「つやまげんぼ塾」を月に一回のペースで行っています。

国語、算数、社会などの教科指導では、具体的な授業場面を想定し、数分間で授業を考え、参加者の前で模擬授業を見せ合いながら学んでいます。

生徒指導や学級経営の内容では、子ども同士の人間関係作りのためのゲームを参加者同士で体験しながら学び、日々の授業に役立っています。



授業場面での意見交流の様子

研修の中では、普段の授業について振り返る時間を必ず取り入れています。

これは、教員自身が子どもをどのような視点で見ているのかを意識し、子どもへの接し方について考えさせる目的です。

参加者からは、「つやまげんぼ塾は、子どもを見るポイントや考え方を学べる場所。何となく過ぎてしまう毎日だが、いかに子どもに目的やめあてを持たせるかが大切。」等、教員の意識が変わること子どもが変わることを実感した声が聞かれました。

また、今年度は、新たな試みとして教員志望の美作大学の学生も参加しています。

学生としては、学校現場で勤務している教員の生の声を聴くことで、教員の仕事をより身近に感じることができ、目指す教員像をより明確にすることができました。

また、現場の教員としては、学生の柔軟な発想の意見を聞いたり、現場での現状を伝えたりすることで、考えを整理し、自分に磨き

をかけることができます。こういった研修が、学生にとっても教員にとってもお互いに良い刺激になっています。

これからも同世代の者同士が学び合い、情報交換を行う等、津山で勤務する教員と教員をつなぐ研修になるように取り組みます。



## げんぼくん

日本最初の医学雑誌を翻訳する等、幕末に活躍した津山藩出身の代表的な蘭学者、箕作阮甫(みつくりげんぼ)は、寛政11年(1799年)9月7日に美作国西新町(現在の津山市西新町)に生まれました。そして、阮甫の子孫には有名な学者が多数輩出されています。

津山市教育委員会では平成21年度に、この郷土の偉人箕作阮甫をキャラクター化した「げんぼくん」を津山市の子どもたちの学力向上のシンボルとして登場させました。

**津山市中学校数学  
活用力向上プロジェクト  
公開授業**

平成26年度から、中学校数学活用力向上プロジェクトを立ち上げ、今年度は、市内の中学校からプロジェクトメンバーを選び、年間6回の会議を開催しました。このプロジェクトでは、数学の活用力を育むための授業づくりを提案することが研究目的のひとつです。



生徒の興味を引き出す小椋教諭の授業

【活用力】とは、  
根拠を明らかにして筋道を立てて体系的に考える力  
言葉や数、式、グラフなどの相互の関係を理解し、それらを適切に用いて問題を解決する力

自分の考えをわかりやすく説明し、互いに自分の考えを表現し伝え合う力  
以上のように仮定しています。



公開授業後の教職員による活発な研究協議

このプロジェクトで提案されたことをもとに、10月27日(火)、北陵中学校を会場に、「50年後の男子100mの世界記録を過去の記録の変化から予想する」というテーマで公開授業を行いました。

生徒たちは、ボルト選手が世界記録を出した時の映像を興味深く鑑賞した後、2〜3人のグループごとに考えをまとめ、提示装置を使って説明しました。  
今まで習ったことを活用しながら、お互いの考えについて意見交換しあう意欲

的な姿が見られました。  
授業終了後の研究協議では、20名ほどの参加者により活発な意見交換が行われました。  
今後、このプロジェクトでは、さらに活用力が向上する授業づくりの提案を目指していきます。

**特別支援教育の  
成果発表会**

平成27年度文部科学省モデル事業「インクルーシブ教育システム構築事業」早期からの教育相談・支援体制構築事業の成果発表会が2月12日(金)ピュアリティまきびで行われました。



取組の発表をする吉田センター所長

津山市では、特別支援教育を推進するための拠点である「津山市特別支援教育推進センター」を中心に取組を進めてきました。

早期からの就学相談・教育相談、巡回相談、発達検査等による学校園支援・保護者支援体制の整備や、保護者学習会・指導者向け学習会の実施、就学後の一貫



シンポジウムでの指定討論

した教育支援のためのシステム整備等、津山市の実践を県下に発信しました。  
後半のシンポジウムの進行をしてくださいました、国立特別支援教育総合研究所 総括研究員久保山茂樹先生が、まとめの中で、「特別支援教育は『つながる教育』、その充実が共生社会づ

くりにつながります。津山市の体制づくりには、たくさんの方の思いがあると感じました」と話されました。  
今後、特別支援教育の充実に向けて具体的な事業を推進していきます。

**平成27年度  
幼・小・中学校卒業式**

卒業おめでとうございます。

卒業式・卒業生数	
幼稚園	
卒業式	3月16日水
園児数	一五四名
小学校	
卒業式	3月18日金
児童数	一〇一八名
中学校	
卒業式	3月15日火
生徒数	一〇二〇名





**給食費が改定されます**

学校給食費の決定機関である各小・中学校、PTAの代表者で構成する津山市立学校食育センター運営委員会で、平成28年度から学校給食費を改定することが決定されました。

改定内容 (各1人1食単価)	改定内容	
	小学校	中学校
現行	255円	290円
改定後	265円	305円
差額	10円	15円

直近では平成24年に改定があり、今年度まで据え置かれてきましたが、この間、食材価格の高騰や、消費税の引き上げなどにより、副食費が圧迫されてきました。

献立や食材の工夫により影響の抑制に努めてきましたが、食材の質を確保し、栄養バランスのとれた、魅力ある給食の提供を維持していくことが困難となっていました。

今後とも、地場産物の食材使用や行事食など、献立

の充実を図るとともに、児童生徒の心身の健全な発達のため、安全・安心な給食の提供に努めます。

**児童生徒の健康診断の検査内容が変わります**

学校保健安全法施行規則の一部改正に伴い、平成28年度から津山市では、座高及び寄生虫卵の有無の検査並びに虫検査については廃止し、新たに四肢の状態の検査を実施します。



実施にあたっては、まず保護者の方に問診票等に回答していただきます。

必要であれば内科検診の際に学校の先生に確認していただき、その際に、異常が見つかれば整形外科等の受診を勧奨します。

近年、過度の運動による骨や筋肉への障害や、運動不足によるバランス能力・筋力の

低下等が児童・生徒に見られることがあり、成長期の四肢の検診は、このような疾患や障害をできる限り早期に発見、対応するために重要となります。

**第68回優良公民館表彰の受賞について  
(城西公民館)**

3月3日(木)に津山市城西公民館が、文部科学大臣から第68回優良公民館表彰を受けました。

これは、城西公民館が、子育て支援、高齢者支援等の様々な事業により、人が集い、学び、仲間とつながる拠点施設になっており、活動・事業内容が、地域住民の生涯学習活動に大きく貢献しているとして表彰されたものです。



城西公民館への表彰状  
(佐々木館長)

特にまちづくり協議会や

各種団体の事務局として情報の集積・発信を行うことで、地域課題の解決やまちづくりを進めるコーディネーターの役割を果たしていることが評価されました。

今後も「城西まるごと博物館フェア」や「まちばの寺子屋」など、誇りをもつ地域住民のつながりづくりや地域をあげた子ども達を育てる公民館活動を進めていきます。

**津山洋学資料館  
オムニバス講演会  
「数にまつわるはなし」を開催**

1月31日(日)に津山洋学資料館で、オムニバス講演会を開催しました。

これは、統一テーマを決め、職員3人がそれぞれ30分ずつ個別テーマで研究報告を行うものです。

今回は「数(かず)のはなし」という生活に関連の深い事柄をテーマとして発表しました。

最初は「比のはなし」で、江戸時代には角度の概念が一般的ではなく、もっぱら比によって傾きを表していた



「数(かず)」をテーマに講演する大倉館長

ことや、大工道具の曲尺(かねじゃく)、紙のサイズに見られる比などの興味深い内容の話となりました。

次に「本のはなし」と題して、学問書の出版経費を推定し、当時の洋学者たちにとつて、専門書の出版は金銭的な面でも容易なことではなかったことを紹介。

最後は「星のはなし」で宇田川榕菴の自筆資料から天文学に対する榕菴の態度について考察しました。

5回目を数えた講演会は年々参加者が増え、今年は90人の方が参加してくださいました。

市民の皆さんへ「津山の洋学」が徐々に浸透・普及している成果の一つだと思えます。

**図書館まつりを開催**

1月23日(土)、24日(日)に市立図書館本館で「第15回図書館まつり」を開催しました。

絵本の読み聞かせや、手作り織り機でのコースター作り、本のおたのしみ袋の貸出、「おりがみキャッチャー」、「かつばみくじ」等様々なコーナーを設置し、楽しんでいただきました。



楽しい行事が盛りだくさんでした

また、津山工業高等専門学校教授 杉山明先生による講演会「孔子とその弟子」とノートルダム清心女子大学助教片平朋世先生による「親子でたのしみお父さんのための読み聞かせ講座」を開催し、それぞれ参加者のみなさまが熱心に聴講されました。図書館まつり全体では、延べ694人と大勢の参加者でにぎわいました。



お父さんのための読み聞かせ講座

**第2回目の「見つけよう！津山の魅力」調べる学習コンクールへ応募ください**

今年度開催した「見つけよう！津山の魅力」調べる学習コンクールを平成28年度も開催いたします。

子どもたちの「自ら考え課題解決する力・生きていく力」を養い、「ふるさと津山への愛着心」を育てることを目的としたコンクールに、多くの作品が寄せられることをお待ちしております。(コンクールの詳細は、児童生徒の皆さんへ5月頃にチラシを配布し、お知らせします。) また、第1回の入賞4作品を収録した冊子を市内の全小中学校と市立図書館に配置します。第2回目のコンクールへの応募作品の参考として、ぜひご利用ください。

**保育園(所)・幼稚園合同研修会「保健衛生に関する研修会」を開催**

平成28年1月28日(木)、津山すこやか・こどもセンターで公立、私立の保育園(所)・幼稚園の保育士及び教諭約60人を対象に、保健衛生に関する研修会を開催しました。

講演では、「子どもの食物アレルギーについて・感染症の予防と処置対応について」と題して、河原内科・松尾小児科クリニック 松尾直光氏にお話しいただきました。



松尾氏の講演を熱心に聴講しました

子どもの命を守るために食物アレルギーの症状、原因食物・除去根拠やアレルギー症状が出た時の対応等について学びを深め、食物アレルギーについての意見交換や

**保育園(所)・幼稚園合同研修会「特別支援教育に関する研修会」を開催**

平成28年2月23日(火)、津山すこやか・こどもセンターで公立、私立の保育園(所)・幼稚園の保育士及び教諭約70人を対象に、特別支援教育に関する研修会を開催しました。

「保育室の気になるあの子との関係づくり」個と集団の両面から考える」と題して、ノートルダム清心女子大学人間生活学部児童学科 青山新吾氏にお話しいただきました。

青山先生は、「エピソード語り」という手法で、気になる「あの子」と周囲の子どもたちへの細やかな指導・支援について、具体的に話され、参加した保育者は、子どもや保護者と「一緒に」考え、悩み、



青山氏の講演から多くのことを学びました

発行 津山市教育委員会  
(編集 学校教育部教育総務課)  
〒708-8501  
津山市山北520番地  
TEL 0868-32-2112(直通)  
FAX 0868-32-2157  
E-mail: kyouiku@city.tsuyama.okayama.jp



教育委員会関係課: 教育総務課 学校施設課 学校教育課  
保健給食課 生涯学習課 図書館 文化課  
津山市史編さん室 スポーツ課 こども課

取り組んでいく関係を結びながら、知識を基盤として様々な支援をすることの重要性を学びました。